

# 平成30年度 学力向上プラン

学校名 中央区立日本橋中学校

## 学校の教育目標

- 考える人になろう    ○心ゆたかな人になろう    ○たくましい人になろう  
○みんなのためにつくす人になろう

## 学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- 1 各教科の年間指導計画と評価計画の充実を図るとともに、適正な教育課程を実施する。
- 2 国語・数学・英語科で少人数、習熟度別指導等、個に応じた指導を充実させる。
- 3 授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進め、基礎基本の確実な定着を図る。
- 4 校内研究、授業観察、個々の教員の教材研究で、毎時間の授業の質を向上させる。
- 5 各種検定の取組やサプリノートの活用を通し、自学自習の意識を向上させ、学習習慣の確立を図る。

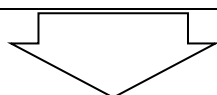
平成30年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出典を明らかにした情報をもとに200～1200字までのまとまった論理的な文章が書けない。</li> <li>・ 初見の論説文・評論文・小説の長文を読みこなす力がついていない。記述解答を敬遠する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校の教育漢字を習得していない生徒が多い。</li> <li>・ 200～1200字までのまとまった文章を書くことや長文を読む経験を積んでいない。</li> </ul>
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分数の計算が苦手な生徒がいる。</li> <li>・ 基礎問題は解けるが、文章題や応用問題になると解けなくなる生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校での分数の計算を習得できていない。</li> <li>・ 読解力が弱い。国語力が関係していると思われる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地名や場所など、地理の基礎的な知識が身に付いていない。</li> <li>・ 自分の意見は言えるが、歴史的な事実を元に論述するのが苦手な文章として成立しない文になる生徒もいる。</li> <li>・ 学力の上位層と下位層に大きく分かれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業に集中して取り組めない生徒の学力が低い傾向にあり、家庭での学習もしないため、小テストをしても効果がない。</li> <li>・ 書くことを敬遠する傾向がある。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 圧力や電流などの計算問題を苦手としている。</li> <li>・ 他の分野と関連づけて考えたり、身近に見られる現象と比べて考えたりする力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算自体はできるものの、どの条件で計算するのか、どのデータを用いるのかなどの判断ができていない。</li> <li>・ 学習内容が将来役に立つと思っていない生徒が多い。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語彙力は定着している生徒と、定着していない生徒との差が大きい。</li> <li>・ 都の学力調査の結果は概ね都の平均を上回っているが、テーマのあるまとまった英作文を書くことに課題がある。</li> <li>・ 自然化学や社会問題、グラフを含む説明文の読み取りを苦手とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正しい英文を書くための語彙と文法をその場では理解しても、定着していかない。</li> <li>・ 様々なトピックを扱った英文を読むことに慣れていない。</li> </ul>

体 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テスト（ハンドボール投げ、握力、持久走）で、生徒の数値が東京都の平均値を下回る結果となった。体力が二極化傾向にあるので、下位層の生徒に興味を持たせ運動する機会を増やすことが課題と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に運動している生徒と保健体育科の授業以外における運動習慣が少ない生徒がいると考えられる。</li> </ul>
-----	--	--

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	<p>目標「基礎基本を確実に定着させる。」</p> <p>指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。生徒学校評価アンケートで肯定的評価が80%以上となる。」</p> <p>平成29年度保護者学校評価アンケート 「学校は個に応じた指導を徹底し、生徒に基礎学力が身に付くように教えている。」 よくあてはまる15.1% あてはまる48.7% 計63.8%</p>
②授業改善	<p>目標「授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進める。」</p> <p>指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートおよび生徒学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。」</p> <p>平成29年度保護者学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進めているか。」 よくあてはまる23.3% あてはまる55.6% 計78.9%</li> <li>・「学校は学習内容がわかりやすく工夫された授業をしている。」 よくあてはまる15.9% あてはまる55.2% 計71.1%</li> </ul> <p>平成29年度生徒学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業規律をまもり、落ち着いて授業を受けられているか。」 よくできた48.5% まあまあできた45.6% 計94.1%</li> </ul>
③教員の指導力	<p>目標「「分かった」や「できた」の実感をもたせる授業を行う。」</p> <p>指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートおよび生徒学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。」</p> <p>平成29年度保護者学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「「分かった」や「できた」の実感をもたせる授業を提供しているか。」 よくあてはまる13.4% あてはまる47.0% 計60.4%</li> <li>・「学校は通知表等を通して生徒の学力を観点別評価により、適切に評価している。」 よくあてはまる22.5% あてはまる52.8% 計75.3%</li> </ul> <p>平成29年度生徒学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業の内容を理解し、達成感があるか。」 よくできた32.2% まあまああった49.2% 計81.4%</li> </ul>

<p>④家庭との連携</p>	<p>目標「自学・自習の学習習慣が身に付くように指導する。」</p> <p>指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートおよび生徒学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を越える。」</p> <p>平成29年度保護者学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「サプリノートや各種検定の取組で、自学・自習の学習習慣が身に付く指導をしているか。」</li> </ul> <p>よくあてはまる22.0% あてはまる49.1% 計71.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活と学習のサプリノート」を活用し、学校と家庭の双方向の情報交換を通して、学習・生活状況の把握を行い、指導に生かしているか。」</li> </ul> <p>よくあてはまる23.6% あてはまる40.8% 計64.4%</p> <p>平成29年度生徒学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「サプリノートを活用し、毎日の復習など家庭学習の習慣が身に付いているか。」</li> </ul> <p>しっかり身に付いている20.7% 身に付いている36.6% 計57.3%</p>
<p>⑤その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての生徒が月に一冊以上読書をすることを目標にして朝読書に取り組ませる。</li> <li>・すべての生徒が卒業までに漢字検定、数学検定、英語検定で3級取得を目標とする。</li> </ul>



### 【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	年間行事や時程を工夫し、授業カットを少なくする。
取組Ⅱ	生徒が授業で身に付けた表現力を活用する場面を授業及び行事や学年・学級の活動に意図的に設定し、言語活動の充実を図る。
取組Ⅲ	各教科で指導と評価の一体化を目指した指導計画・評価計画を作成する。 その中で、 「①オリンピック・パラリンピック」、 「②表現力の育成」、 「③他教科等」に関わりのある学習内容を明確にする。

②授業改善	
取組Ⅰ	①交流が活発に行われる授業 ②「できた」「分かった」を実感させる授業 ③社会や生活に広がる授業を目指す。
取組Ⅱ	管理職による授業観察を定期的実施する。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図る。
取組Ⅱ	他教科や学年の教師間と常に指導内容や子どもに関する情報を交換する。
取組Ⅲ	生徒の反応や学習状況に応じながら計画に沿って授業を実践する力を高めていく。(発問や指示・板書の工夫、教材・教具の活用等)

④家庭との連携	
取組Ⅰ	「生活と学習のサブノート」を活用し、各生徒の家庭学習の状況を把握するとともに、保護者と連携を図り、家庭学習の習慣化を目指させ、自学・自習の能力を育成する。
取組Ⅱ	携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用について家庭でルールを決め、食事や睡眠時間など基本的な生活習慣を確立させる。

⑤その他	
取組Ⅰ	朝読書を中心にした朝学習の取組を充実させ、授業では身に付かない先人の知識・知恵を補完させる。また、始業前の朝読書に落ち着いた環境で取り組ませ、授業に臨む雰囲気づくりをする。
取組Ⅱ	全員対象の2年時の漢字・数学検定、3年時の英語検定に向けて、各学年及び当該教科は、計画的事前学習に取り組ませる。また、各検定とも3年卒業期までに3級合格を目標とする。



## 【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が授業で身に付けた表現力を活用する場面を意図的に設定した。また、指導計画の中に表現力の育成を取り入れたことにより、授業等での生徒の表現力を高めることができた。</li> <li>・生徒アンケート「授業の進め方はちょうどよいと思いますか」 肯定的評価が82.2%となり、基礎学力が定着していると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート「学校は個に応じた指導を徹底し、生徒に基礎学力が身に付くように教えている。」 肯定的評価が前年度を下回った。 63.8%→62.0%</li> <li>・グループ分けや個に応じた指導を工夫していく。</li> <li>・成績の二極化傾向が見られ、成績下位層はグループ活動への参加が難しい。</li> </ul>
②授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート「授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進めているか。」 肯定的評価が前年度を上回った。 78.9%→85.8%</li> <li>・生徒アンケート「授業規律を守り、落ち着いて授業を受けられているか。」 肯定的評価が前年度94.1%→93.4%と、生徒アンケート結果は0.7ポイント下がったが、90%を越え、授業規律が保たれ、生徒が集中できる環境で授業を進めることができた。</li> <li>・交流が活発に行われる授業を実践することによって、「授業の中で班で話し合う活動はとても良いと思うので続けてほしいです。」と生徒が実感をもつことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート「学校は学習内容がわかりやすく工夫された授業をしている。」 肯定的評価が前年度を下回った。 71.1%→69.8%</li> <li>・教材や指導法を工夫し、わかりやすい授業を目指していく。</li> </ul>
③教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート「「分かった」や「できた」の実感をもたせる授業を提供しているか。」 肯定的評価が前年度を上回った。 60.4%→63.8%</li> <li>・保護者アンケート「学校は通知表等を通して生徒の学力を観点別評価により、適切に評価している。」 肯定的評価が前年度を上回った。 75.3%→76.4%</li> <li>・生徒の反応や学習状況に応じて、発問や指示・板書を工夫したほか、教材・教具を活用することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケート「授業の内容を理解し、達成感がありますか」 肯定的評価が前年度を下回った。 81.4%→76.4%</li> <li>・グループ活動による評価が生徒には実感しづらい。</li> <li>・他教科との指導の連携や生徒の学習状況・理解度に関する情報交換が十分ではなかった。</li> </ul>

<p>④家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート「生活と学習のサブノート」を活用し、学校と家庭の双方向の情報交換を通して、学習・生活状況の把握を行い、指導に生かしているか。」 肯定的評価が前年度を大幅に上回った。64.4%→86.9%</li> <li>・サブノートを通じて学校と家庭との交流や情報交換が容易にでき、指導につなげていくことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート「サブノートや各種検定の取組で、自学・自習の学習習慣が身に付く指導をしているか。」 肯定的評価が前年度を下回った。 71.1%→67.3%</li> <li>・「サブノートを活用し、毎日の復習など家庭学習の習慣が身に付いているか。」 肯定的評価が前年度を下回った。 57.3%→53.6%</li> <li>・サブノートを通じて生活面だけでなく、学習の状況についても学校と家庭の双方で生徒へ自学自習の働きかけをしていく。</li> </ul>
<p>⑤その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学活後の落ち着いた環境で朝読書に取り組ませることができた。</li> <li>・卒業までの3年間で漢字検定、数学検定、英語検定での3級取得を目標として取り組ませ、6割以上の生徒が3級を取得することができた。(3/1現在)</li> <li>・保護者アンケートを配布する際に、生徒アンケートの結果を示したことによって、保護者アンケートの回収率が高まった。また、「わからない」の回答率が減少した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒を平均すると月一冊以上は読書をしているが、一冊未満の生徒がいる。すべての生徒が月に一冊以上読書をするように働きかけを工夫する。</li> </ul>